

いちげ 一夏会報

No.73



令和7年11月1日

発行：鶴見大学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-580-8623(ダイヤルイン)

<https://www.tsurumi-u.ac.jp>



鶴見大学 学長
高田 信敬

「新しいもの、古いこと」

記録破りの酷暑、豪雨
また暴風と、招かれざる
訪問者が続きました。も
し受講生の皆様の中に被
災された方がいらつしや
いますならば、平穏な日
常へのご復帰を心よりお
祈り申し上げます。

本講習は、コロナ禍を
機会に伝統的な対面授業
からオンライン開講へと
主軸が大きく変わりました。
講習だけではありま
せん。図書館のみならず、
どの職場でもコンピュー
タがずらりと並び、種々
の問い合わせやそれに対
する受け答えも、電子機
器と通信網なくしては果
たせなくなっています。
あちこちの図書館へ出か
けては膨大なカードをめ

くり、書物を積み上げて
鉛筆片手に調べ物、など
と言うのは全くの昔話で
す。今や、遠隔地の書物
も画像として検索閲覧が
出来、様々な情報を瞬時
に獲得出来るようになり
ました。それは便利で結
構なことですけれども、

そもそも本を読まない風
潮が止めようもなく進行
するのに加え、急激な情
報技術革新が進む時代に
おいて図書館がどのよう
にあるべきかは、とても
難しい問題です。
現代図書館の理念と言
う大きな問題は一旦棚上
げとして、様々な技術革
新の恩恵を蒙っているの
は、利用者であり一般市
民です。他方、司書の皆

さんは変化して止まない
機器の操作や新技術の習
熟、また、お上から次々
と指示される新しい制度
にも対応する必要があり
ます。勿論、複雑多様化
する利用者の要求と向か
い合わなくてはなりません。
これらの事象が日々

変化進展するのですか
ら、便宜と引き換えに大
変やっかいな時代となっ
たわけです。
また、書物王国である
我が国には、貴重な古典
籍や古文書などを収蔵管
理している図書館も少な
くありません。古典籍・
古文書の取り扱いや継承
保管には、特殊な技能及
び高い知識を必要としま
す。ついでに申しますと

相当の予算も必要です
が、これにつきましては
また別の機会に申し上げ
ます。元の筋へ戻って、
活字本ですら、明治時代
刊行の書物は取り扱いに
かなりの配慮が不可欠で
す。なにより利用者の
方々は、直接来訪される
場合であってもネットに

よる問い合わせであって
も、昔からあまり変わっ
ていない生身の人間で
す。現場では、共感と理
解・言葉を交わす技など、
古風で下世話な表現をす
るならば人情味豊かな接
し方と言うことになりま
しょうか、それが欠かせ
ないと思います。
新しいものへの適応
は、勿論大切です。同時

に古いことを捨てて顧み
ないのはよろしくありま
せん。この両面に向かい
合わなくてはならない現
代の図書館は、以前より
難しい課題を多く与えら
れているのであり、そこ
で働く司書の皆さんの役
割も重い、と言うわけで
す。しかし図書館の仕事
は、申すまでもなくおも
しろくやりがいがあり、
そして何より職業は単に
生活の糧を得るのみなら
ず、人として向上する機
会です。講習において培
われた技能知識と豊かな
人間関係が、輝かしい明
日の扉を必ず開いてくれ
る、と信じております。

一夏のオンライン講習を終えて



鶴見大学 司書講習
主任教授
河西 由美子

講習生のみなさま、一夏の司書講習たいへんおつかれさまでした。ここ

にめでたく修了の日を迎えられましたこと、心よりお祝いとねぎらいの言葉を申し上げます。

また、今年度の特徴としては、昨年度にも増して現職図書館員の割合が増加したことがあげられます。正規・派遣・アルバイトなど全雇用形態を合計しますと百二十名定員のところ四十一名が現

職図書館職員であり、令和元年度と比べると二倍以上の数値になっています。働きながら資格取得を目指す方々の遠隔学習へのニーズが高いことがわかります。実際に今夏の講習では、図書館での勤務経験をお持ちの方々の学修への熱意はひととき

やコメントにも、実体験に基づく内容のものが多く、講師陣からも折に触れその学修態度の素晴らしさについて感嘆の声が寄せられました。図書館の現場から司書講習にご参加いただくことは、本学にとりまして大きな責任であり喜びとするところでもあります。優れた講師陣を得て、今日の諸課題に応じた授業内容を提供することで、質の高い司書を輩出し、日本の図書館界における司書養成の一助となることを引き続き志して参ります。

一方、オンライン講習ならではのコミュニケーションの問題も例年に亘り本学司書講習のポスター掲示にご協力くださっている図書館各位

に、この機をお借りしてあらためて御礼を申し上げます。今夏も長期にわたる猛暑、台風・大雨などの自然災害への懸念は常に存在しました。幸い大過なく修了の日を迎えることができましたが、対面講習時代には、台風による休講・補講が生じた年もあったことを振り返りますと、悪天候時に移動の懸念なく受講できることの安心感は、遠隔授業ならではのメリットだと思います。

一方、オンライン講習ならではのコミュニケーションの問題も例年の課題です。特に講習開始当初は、「孤独である」

「不安を感じる」というお悩みを見聞きすることが多くあります。幸い、昨年度に続き今年度も講習生有志の方がSNSを通じてコミュニケーションの機会を設定してくださり、ネットワークを通じた情報共有や交流が行われたとのこと、たいへんありがたく嬉しく存じました。

オンライン講習を契機に、講習修了生のためのフォローアップ企画についても検討を始めました。例年秋に横浜で開催される日本最大の図書館業界の見本市である「図書館総合展」には、昨年度多くの修了生が足を運んでくださったことから、今年度は図書館総合展の会期中に、講習修了生向けの本学図書館の見学ツアーを企画いたしました。毎年定例のイベントとなるよう目指して参りますので、毎年秋にはぜひ横浜・鶴見大学にお

運びください。講習のオンライン化は、距離や時間の制約を超える利点があります。が、大学教育で最大四年間かけて学ぶ内容を二ヶ月半に集約して学ぶことの厳しさは対面講習の時代と変わりません。特に

お仕事を持たれている方、子育てや介護など家庭の事情を抱えの方々にとりましては、職場・生活上のやりくりや上司・同僚・ご家族のご理解やご支援なしには成立しなかった講習生活であったことと思います。

周囲の方々への感謝はもとより、厳しい一夏を乗り越えたご自身をもぜひねぎらっていただきたいと思っています。

本学での講習が修了生のみならず今後の資するものであれば幸いです。今後のご活躍を心より祈念申し上げます。

オンライン講習への移行後の特徴は、全国津々

わ高く、授業内での質問

ださっている図書館各位

に、この機をお借りして

あらためて御礼を申し上げ

ます。今夏も長期にわたる猛

暑、台風・大雨などの自然

災害への懸念は常に存在し

ました。幸い大過なく修了

の日を迎えることができました

が、対面講習時代には、台

風による休講・補講が生じた

年もあったことを振り返り

ますと、悪天候時に移動の

懸念なく受講できることの

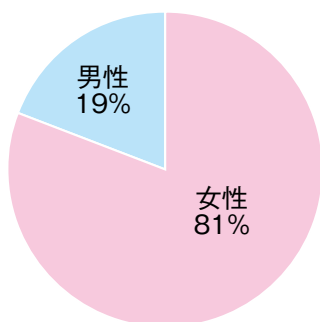
安心感は、遠隔授業ならではの

メリットだと思います。

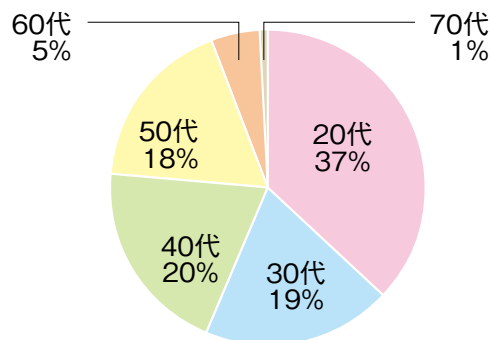
令和7年度 司書講習 アンケート集計

(回答数／受講数=68名／140名)

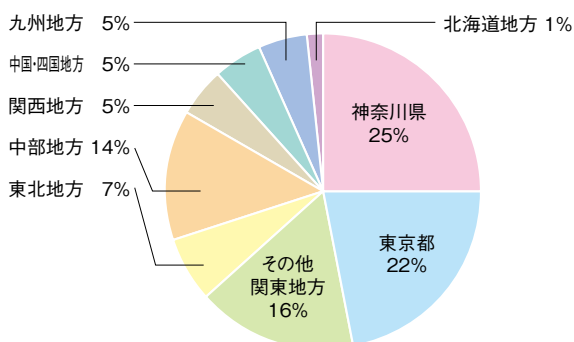
男女別データ



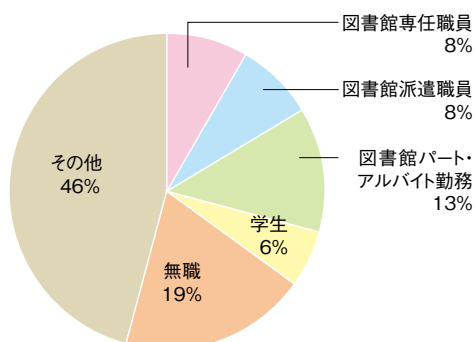
年齢別データ



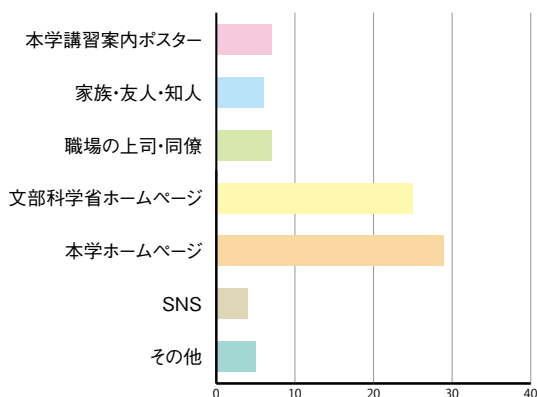
地域別データ



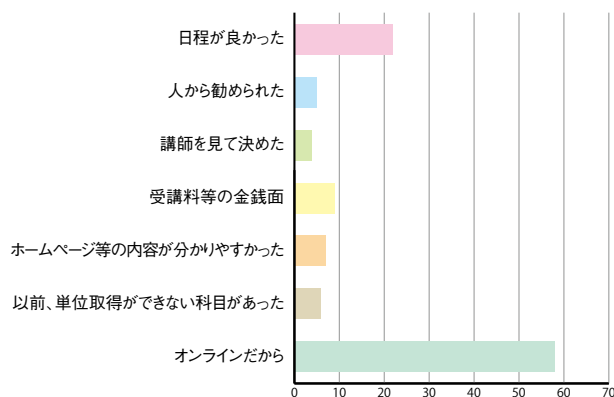
職業別データ



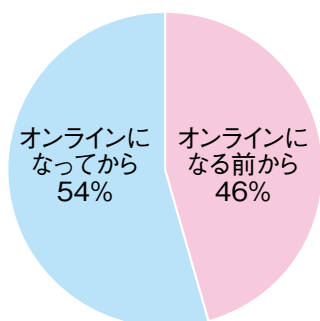
▼本学の講習を知ったきっかけ(複数回答)



▼本学の講習を選んだ理由(複数回答)



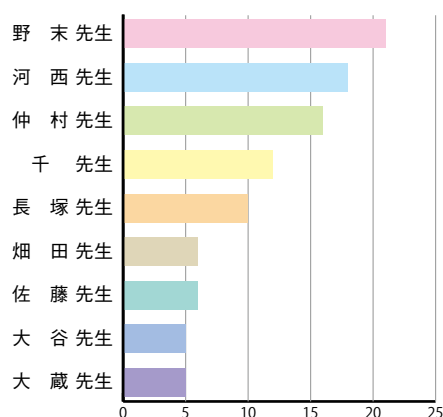
▼本学の講習をいつからご存じですか



令和7年度 司書講習 アンケート集計

(回答数/受講数=68名/140名)

▼印象に残った講師(複数回答)



【野末先生】

●資料、講義の進め方、スケジュール感など全てにおいて大変分かりやすく丁寧で、かつオンデマンド授業の理想形のような講義でした。

【河西先生】

●参加型の授業で、対面で受けている感覚に近いと感じた。
●実際に鶴見大学に通って授業が受けたい！もっともっと授業を受け続けたいと思わせてくれました。

【仲村先生】

●初学者にもわかるような丁寧な説明で、授業が理解しやすく、ハキハキしていて聞き取りやすかったです。とても勉強しやすい授業でした。

【千先生】

●資料もお話しもとても理解しやすかったです。情報検索は大変難しいのですが、基礎的な部分について理解ができたと思います。

【長塚先生】

●図書館を取り巻く環境がここまでデジタル化していることを初めて知りました。

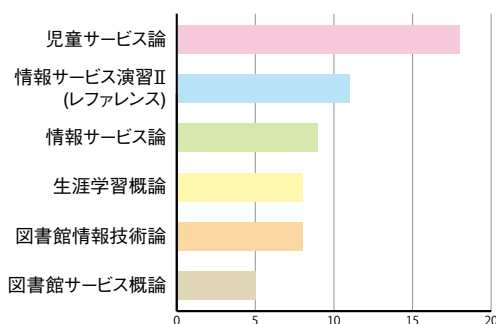
【畑田先生】

●演習が実務に直結しておりわかりやすく、丁寧でした。

【佐藤先生】

●目録の実例や検索式の解説が実践的で大変参考になりました。

▼印象に残った科目(複数回答)



【児童サービス論】

●グループワークやインタラクティブな方法が取り入れられており、オンラインでも「人」がいることを実感できて、学びが身につく感じがしました。

【情報サービス演習Ⅱ(レファレンス)】

●課題の量が多く、受講期間も短く大変でしたが、司書講習の集大成として、職場で実践できる内容が学べて良かったです。

【情報サービス論】

●掲示板を利用した実践的なワークが印象的でした。オンデマンド授業も対面受講に近いリアル感があり、説明が頭に入りやすかったです。

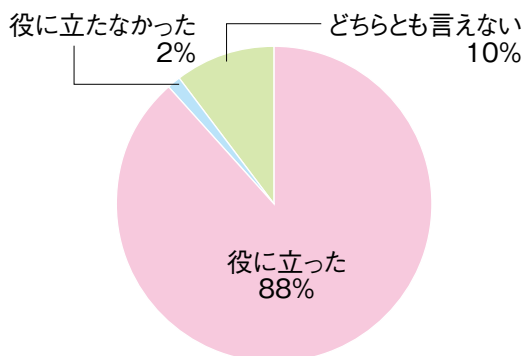
【生涯学習概論】

●改めて「生涯学習とは何か？」を学んだことで、図書館や社会について考えるうえでの新しい視点が得られたため。

【図書館情報技術論】

●最新の図書館の動向がわかる授業と資料で、生成AIなどについても扱って下さって、その後の受講にも役に立ち有り難かったからです。

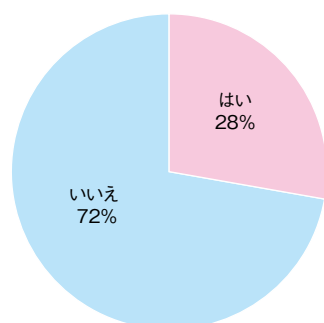
▼ITリテラシー講座はいかがでしたか



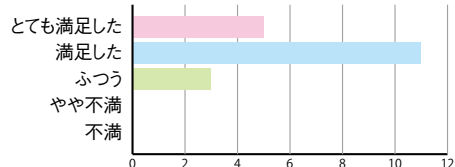
【感想】

- 自宅一人で受けるので不安が解消されてとても良かったです。
- 初回に受講環境やシステムの使い方を確認できたのでその後安心して授業を受けられました。
- 実際にmanabaを使用した経験がなかったのでとても分かりやすく実際にテスト送信できて利用方法も確認できて良かったです。
- 様々な背景の受講生がいるため操作確認のためには必要だと思います。
- ネットを利用する上で知っておくべき事ばかりでした。
- manabaの見方、使い方について、もっと詳しく教えていただきたかったです。

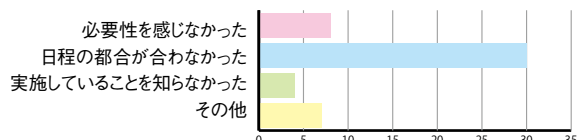
▼交流会(オンライン)は参加されましたか



【はい と答えた方】



【いいえ と答えた方】

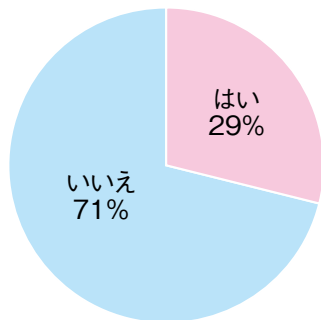


【その他】

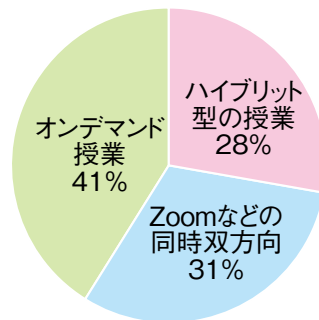
- 参加するつもりでいたが課題に取り組んでいたら参加しそびれてしまった
- 日程を忘れてしまった
- 交流が苦手なため

令和7年度 オンライン授業について

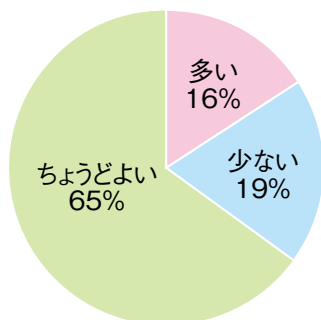
▼講習以前のオンライン授業経験



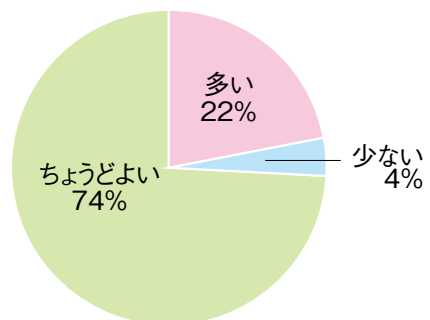
▼受講経験のあるオンライン授業の形式



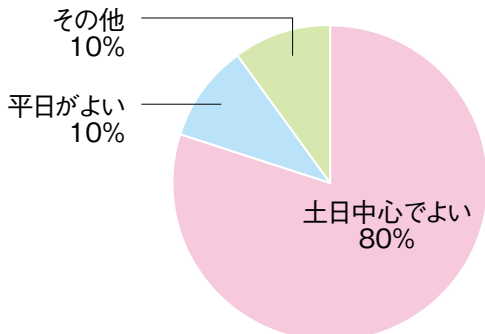
▼リアルタイム授業の科目数について



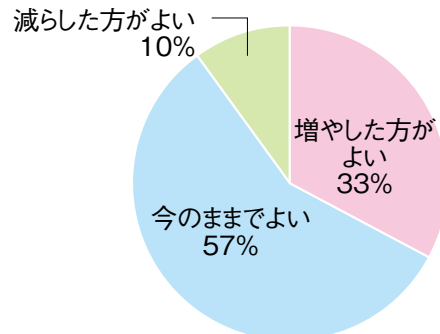
▼リアルタイム授業の1科目の時間数について



▼リアルタイム授業の日程について



▼リアルタイム授業の科目について



(その他)

- ばらけさせず1日に集中していると、平日・休日問わず予定は取りやすかった。
- 土日平日とりまぜ、偏りのない日程でお願いしたいです。
- もう少し平日が多い方が休みやすかった。

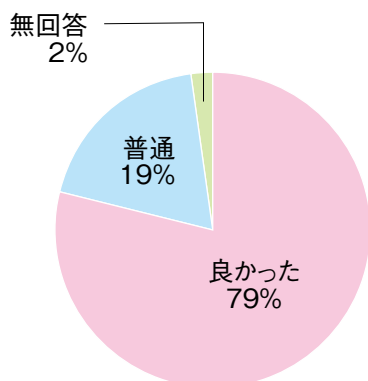
リアルタイム授業の感想

- 掲示板や個別コレクションで質問することもできますが、やはりリアルタイムオンライン授業があると質問しやすいのと先生の生の授業の方が頭に入って印象に残りやすいと感じました。
- 授業内容についてどこが大切な部分なのかは、先生の話し方や表情で感じる場所も大きいと思うので、有難かった。
- 最初にリアルタイムオンライン授業があった方が、その後安心感を持ってオンデマンド授業の受講を一人で進めることができると思いました。
最初と最後にあるのが一番理想だと感じました。
- ブレイクアウトルームを使用した、議論のディスカッションなどが授業で取り入れられると理解がさらに深まると思いました。
- オンデマンド授業にくらべて、リアルタイムオンライン授業のほうが集中して受講できた印象があります。質疑応答の時間もとっていただけたので、疑問点をその場で解消することもできたのもありがたかったです。
- 先生方がそれぞれに工夫を凝らしてくださったおかげで、大変有意義な授業でした。

令和7年度 特別講座について

演題「日本における公共図書館の役割論争:貸出・レファレンス・場の提供」

講師 大場 博幸(日本大学文理学部教授)



【感想】

- 社会環境の変化と情報技術の進化により、図書館を取り巻く環境も変化していくこと。その歴史を学問的に知ることはいずれからの図書館を考える上で非常に重要であると感じました。
- とても興味深い講座内容でした。時代背景や統計などを分かりやすく説明してくださっていたので、図書館学初學者の自分でも理解できました。
- 出版社の図書館に対しての考えを初めて聞き、公共図書館と書籍市場との関係はとても興味深く、貸出中心かレファレンス中心かなど時代の流れを読みながら公共図書館サービスを考えなければならないと感じました。
- 図書館業界の現状を垣間見ることができた。図書館の在り方については様々な授業で触れられていたので、理想の図書館像が自分のなかに構築されつつあったが、それが正しいものであるのか再度考えさせられました。
- 図書館の運営にも色々論争があるのだなと思いました。特に気になった論争は場としての図書館論と情報提供重視の図書館です。司書講習として学んだ内容が情報提供重視の図書館の内容だったと考えられるので、今後場としての図書館があるべき姿になるのであれば、創意工夫が今後必要になってくると考えました。

…… 講習全体の感想 ……

- 幅広い世代の方と、全国各地にいらっしゃる方たちと一緒に授業が受けられて新鮮でした。学びになることも多く、濃厚な2ヶ月半でした。ありがとうございました。
- 全科目がオンラインでなければ受講できない、地方に居る者にとっては本当にありがたい講習でした。仕事を全く休むわけでもなく（少し休みを増やした程度）家庭も維持でき、まさに両立できる形態でした。途中、講義がかなり混みあっている期間があり、受講が大変だったので、次年度はそこに集中しないカリキュラムを組んでもらえたら、来年度の受講生は助かると思います。
マナバの存在は大きく、受講がスムーズにできたのもマナバのおかげだと思います。2か月半、本当にありがとうございました。
- 限られた期間での講習でしたが、無事に全日程を終えることができ、安堵とともに達成感でいっぱいです。大変なスケジュールを乗り越えたことで、「やればできる」という自信につながりました。司書講習を受講して本当に良かったと感じており、この経験は今後の人生に役立つものと確信しています。
- 講習はとても新鮮で楽しく、充実した日々を送れました。教科書を書かれている先生方からお教えいただく機会は非常に貴重で、ありがたかったです。有難うございました。
- 講義を受けて勉強するということがかなり久しぶりだったので不安でしたが、みなさん優しく、安心して講義を受けることができました。私自身は大学に通って資格を取ることは難しく、オンラインでなければ講義を受けることができなかったのですが、デメリットよりもメリットの方が大きかったです。様々な学びを得ることができ、先生方にはとても感謝しています。
- 通常は大学の学部などで時間をかけて受講する授業を2か月半の期間に集中して受けるということで覚悟はしていたつもりでしたが、やはり時間との戦いでした。3つの科目が同じ時期に重なる事もあり、いったいどうなるのか不安な日々でした。
自分も含め図書館で働いた経験のない者には理解が追い付かない内容も多くあり、できれば半年くらいのスパンで受講できたら、一つひとつの科目をもっと理解を深めながら学ぶことができるかも、などと、終わった今は思います。
オンラインやオンデマンド授業のおかげで、仕事を完全に休まずにということは無理でしたが、完全にリアルタイムのみでは実現できなかった司書講習の授業を受けさせていただき大変勉強になりました。
- とても大変でしたが、リアルタイムも土日が多かったし、授業の内容も難しかったですが実務に必要な濃い内容で本当に鶴見大学司書講習を選んで受講して良かったです。閉講式の終わりにみんなて手をふってお別れをしてZOOMを退出後、寂しくて涙がでました。先生方や受講生の皆さんと出会えて本当に良かったです。
とても充実した3か月間を私にくださってありがとうございました！

司書・司書補講習の歩み

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29(1954)年に開講しました。その間著名な多くの先生方のご指導の下、優秀な修了生を輩出し、本学の講習は成長してまいりました。そして、開設時の昭和29年に講習生の会として「一夏会」が発足したのがこの会報の由来となっております。

平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩3分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。近年はコロナウイルスの影響を鑑み、オンデマンド授業を取り入れながら対面方式で開講して参りました。

昨年度より講習科目すべてを完全オンラインで実施し、今年度は司書講習のみの開講となりましたが、全国より受講いただき、オンライン講習の認知度も上がっていると実感しております。

今後も本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りにますますの発展を期して努力してまいります。

司書講習受講生の皆様へ

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。皆様のご意見を参考に、今後もより良い講習にしていきたいと思います。

今年度は、完全オンラインで司書講習のみの実施となりましたが無事に閉講式を迎えることができ、事務局一同ほっとしております。ありがとうございました。

この密度濃い一夏の講習を乗り越えられたことは、皆様にとっても未来への一財産となったことと思います。

今後のご活躍を楽しみに応援しております。
約3ヶ月間お疲れ様でした。